

新車ディーラーでは近年、エコロジーに対する取り組みを進めているが、富士スバル(齋藤照社長)ではさらに一歩進んだ省エネ化を実現している。

前橋市の同社本社ビル(地上9階建て)に夜間電力を利用した地下蓄熱槽やエコ管理コンピュータなどの高効率エネルギーシステムを導入し、建物全体

## 富士スバル

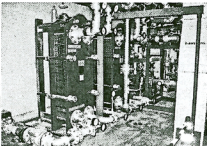
で高熱源の使用を抑制。伊勢崎日之出店や渋川店でも同様の設備を採用しており、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の削減に努めている。

本社ビルのシステムは200

4年に取り入れたもので、経済産業省の外郭団体である新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の推進補助事業に認定された。群馬県内の企業と

# 夜間電力活用で35%減

が実践  
ル実  
社工  
本省



実践  
を本  
省エ  
を進  
一歩  
する  
①本  
②本  
③本  
④本  
⑤本



しては最も早い地下蓄熱システムを導入で、夜間電力を活用した大温度差ヒートポンプチャージを始め空調・換気設備の高効率化、照明装置人感知センサーの採用などにより、エネルギー利機に検討していく方針だ。

用を必要最小限に抑えている。その削減効果は、エネルギー使用量で約35%。導入翌年からNEDOの目標値である33.5%をクリアしており、その効果性の高さから05年に伊勢崎日之出店、07年に渋川店にも導入した。特に両拠点のショールームには保温効果の高い床暖房を採用しているため、冬場にはユーザーからも喜ばれている。こうした活動から同社およびグループは「まえばし水と緑の環境賞」